

セミナー

行政の取組紹介

- ・内閣府が推進するコミュニティ・カレッジと高齢者について紹介
- ・町田まちづくり情報館について

事例紹介① 視覚障害者

① 町田まちづくり情報館

「スーパー・情報館」のほかに、いっしょに、消火器を触れ合ったり、バス停のサインを、いっしょに作るなどの活動も、また、まちづくり推進委員会の活動など。

② 犬山（学生）との交流の取り組みについて

「1日体験活動生」の活動の紹介（※要予約）。いっしょに犬山で犬大（学生）の授業の勉強について、まちづくり推進委員会と犬大（学生）のグループで交流しています。

③ 「江戸川町の発展の推進員」について

「江戸川まちづくり推進委員会」の活動の紹介（※要予約）。また、まちづくり推進委員会の紹介や役員紹介。

和食会（若者のみ）

- ・第1グループ【調理学科生について】施設
- ・第2グループ【犬大（学生）との交流の取り組みについて】犬大
- ・第3グループ【江戸川町の発展の推進員について】町田地区

自転車について

町田自転車道（町田駅～大森）について、この道の歴史や現在の状況などについてご紹介いたします。

町田駅～大森間の道の状況について、お聞きください。

道の現状や今後の計画など、お聞きください。

[illegible]

◎地域の事例紹介

1. 買い物支援事業/加茂まちづくり推進委員会

○事業開始の背景

2019年に高齢者アンケートを実施し、通院や買い物に不安を感じる高齢者が多いことが判明。

2022年に「お出かけ支援事業実行委員会」を立ち上げ、買い物支援の検討を開始。

○買い物支援事業の試行実施

地元の社会福祉法人の協力を得て、2024年9月から近隣スーパーへの送迎を開始。

○試行事業の役割分担等

社会福祉法人（車両・運転手の提供）

行政（関係部署との連絡調整、補助金交付）

まちづくり推進委員会（事務局；運行管理、利用者登録、連絡調整等）

○実施地域と運行概要

2ルートで運行

対象者：75歳以上で自力で買い物ができる人

利用者：16人、付添いサポーター5人（うち1人は利用者兼任）

8人、付添いサポーター2人（利用者兼任）

○利用者の声

- ・近所の人との交流が楽しい。
- ・直接商品を選べることでありがたい。
- ・地元の人が付き添っているので安心。

○今後の展望

事業継続には、効率的な運営方法や添乗員など協力者の継続性を確保することが重要。

新たな協力事業者を開拓し、対象地域の拡大も検討していきたい。



2. 大学との連携/今津まちづくり推進委員会

○事業開始の背景

2012年、福山大学教授が、松永駅前の民家を改修したサテライト施設「M亭」を開設し、学生が地域で活動するための組織「プロジェクトM」を立ち上げた。「プロジェクトM」には、学生や地域住民、地元企業が参加し、毎月定例会議を開催して、地域の活性化に繋がる取組を議論している。

○実施事業

- ・地域の文化祭への学生の参加（学生が射的コーナーを運営）
- ・町中ゼミナール（学生が企画運営し、地域の方が講師になる講座）
- ・河川清掃への学生の参加
- ・大学へ行こう（小学校PTAの主催で、子どもたちに大学の雰囲気を経験）
- ・夏休み工作教室（地元企業が材料を無償提供し、学生が子どもと一緒に工作）

○卒業生との連携、主な取組（卒業後も、地域活動に協力してくれる卒業生がいる。）

- ・スマホ講座（ソフトバンクに就職した卒業生が実施）
- ・就活セミナー（会計事務所に就職した卒業生が講師として実施）
- ・イルミネーション制作（卒業生の指導のもと、子どもたちと作成）



○大学との連携

- ・地域で行う事業に関連する分野の教授を講師で招くなど、普段から教授との関係性を作ることが大切。
- ・教育活動として、教授が学生を引率して参加する事例もある。
- ・どの事業に、どういう形で教授や学生に関わってもらいたいのか明確にすることが必要。

○今後の展望について

地域と大学（学生）・企業などが交流を重ね、まちづくりの核として展開していくことで、「住みやすい」「親しみの持てる地域」にしていきたい。



3. デジタル化の取組/明王台学区まちづくり推進委員会

○事業開始の背景

これまで地域情報の発信は、回覧板や学区のHPを使っていたが、それぞれ課題があった。

（回覧板）

- ・回覧順により情報を得る時間に差があり、情報が届くまでに時間がかかる。
- ・緊急時に迅速な情報伝達ができない。

（HP）

- ・交流館だよりやイベント情報を掲載していたが、アクセスしてもらわないと情報が手に入らない。

⇒これらの課題を解決するために、2022年度から、まちづくり推進委員会の総務部会と交流館をメンバーとして公式LINE導入の検討を開始。福山市内で公式LINEを導入している、西学区にノウハウなどを学んだ。

○公式LINEの試行実施

2022年11月から、役員を対象に公式LINEを試行実施。

○実施状況

- ・2023年2月から、学区の全世帯を対象に、「明王台学区まちづくり公式アカウント」を運用開始。
- ・携帯電話やSNSツールを利用していない人もいるため、回覧板や配布物は継続。
- ・2025年2月7日時点で655人が登録。

○掲載内容

- ・交流館だよりやイベント情報
- ・イノシシの出没情報
- ・落とし物、忘れ物情報掲載。

○今後の展望

公式LINEの登録者数を増やし、地域の情報発信力を強化したい。
イベント情報に触れる機会を増やし、まちづくりへの関心の高まりや参加者の増加を目指す。



◎相談会

- ・【第1グループ】買い物支援事業/加茂まちづくり推進委員会
 - ・【第2グループ】大学との連携/今津まちづくり推進委員会
 - ・【第3グループ】デジタル化の取組/明王台学区まちづくり推進委員会
- 少人数で行ったことで、より詳しい内容を聞くことができたとともに、活発な意見交換につながった。

